

1. 学校名 東京都立八丈高等学校
2. 活動名 島しょにおける海洋教育の推進
3. 実践の概要・ねらい

八丈をはじめ島しょの高校においては、あまりにも海が身近過ぎて、興味関心が内地に比べてかえって低いような状況にあり、海で遊んだり活動したりする頻度も小中高と学年が上がるにしたがって減少する傾向にある。

そのため八丈島における海洋と海洋文化の教育をより充実させるとともに、伊豆諸島、小笠原諸島、ハワイ諸島の高校生が交流し海洋文化を学び共有するなかで、各島の伝統文化や海とのかかわりを守り発展させる活動をおこなった。さらに島しょ高校生サミットの実施や内陸部との高校とも交流をおこない海洋教育を推進した。

4. 実践計画

① テーマ・概要・活動計画、教科等との関連

島しょにおける海洋教育を推進するために、他の島しょ地域と交流することで、各島しょ地域の海と海洋文化を体験したり発表を聞いて間接的に体験することで、八丈の海と自然、そしてその海と自然によってはぐくまれてきた海洋文化を再認識する。

活動計画としては学年ごとに以下のような計画で実践を進めた。

1 学年 総合的な学習の改善

海浜清掃から発展させた漂着物調査を親子レクリエーションとして実施し、世代間を超えた取り組みに深化させた。

2 学年 理数研究校の取り組みに海洋教育を盛り込む

小島は50年前に全住民が八丈に移住して以来無人島であり、人の手がほとんど入らない状況が半世紀続いており、クロアシアホウドリなどの繁殖地となっている。理数研究校の実践の一環として備船して希望者が八丈小島に渡り、海岸部と山間部の自然観察を実施した。

生徒全体への取り組みとしては、東京海洋大の加藤教授に来島いただき、毎年、八丈島周辺で回遊する鯨類について講演をいただいた。

3 学年 学校設定科目の改善

全日制での「海洋文化」においてダイビングライセンス取得後、八丈の海洋文化を学ぶ時間数を増加させるとともに、定時制では「海洋・地球・宇宙」を新規開講して実施した。

全学年 他の地域との交流

公募に寄り代表生徒を決めて、小笠原、ハワイ、北海道夕張に生徒を派遣し交流をおこなった。また、島しょ高校生サミットを小笠原で実施し、伊豆諸島、小笠原の高校生が一堂に会し交流をおこなった。

詳しくは各活動の報告書参照

② 実践の評価について

評価については、実践後の生徒に対してのアンケート調査と感想などの聞き取り調査によりおこない、分析の際には総合的な学習の目標、理数研究校の目標、各学校設定科目の目標に照らして評価をおこなった。

5. 今年度の実践

① 計画からの追加・変更点

計画から実施に向けて、相手先の学校や地域の体制や実際のスケジュール段階でおこった変更点については、柔軟に受け入れる形で実践をおこなったが、目標の実施に影響を与えるような大きな変更はなかった。

② 実践の成果

1 学年 総合的な学習の改善

1年の総合的な学習では、はじめは単なる清掃活動として海浜清掃をおこなっていたがパイオニースクールの指定を受けて、単なる掃除ではなくごみを種類に分け数量を計測して、世界的データベースに登録することにより環境保全活動になることを実践してきたが、今年度はその活動にPTAが協力することにより親子の活動をして「親子レクリエーション」として実施したので、校内の枠を超えた地域の環境保全活動に拡大された。

総合的な学習のねらいとして地域とのかかわりを重視した活動となった。

2 学年 理数研究校の取り組み

理数研究校の取り組みは、①理数系を深く学ぶ高校生を増加させることと②理数系の教養をすべての高校生に身に着けさせるすそ野を広げるとう2つの目的をもって実施されている。本校では海洋教育を取り入れて、この2つの目標を実現させる取り組みをおこなった。

八丈小島の自然観察は①の深化させる取り組みであり、小島に渡ることを希望する生徒を募り実施した。これまで本校では備船して小島に上陸したことはなく初の試みであったが参加した生徒のほとんどは初めて訪れた小島の自然に驚くとともに天然記念物のクロアシアホウドリの営巣地の整備などのボランティア活動をおこなった。

鯨類の講演会は、②のすそ野を広げる取り組みであり、毎年冬から春にかけて回遊してくるザトウクジラの生態についてその年の状況について講演をお願いすることにより、八丈周辺の海がくじらのような大型海洋生物にとっても一時的にしても生息しやすい自然環境であるということを学んだ。

3 学年 学校設定科目の改善

「海洋文化」はダイビングのライセンスを取得することが科目の実質的な目標であり例年、11月ごろにライセンス取得後は海釣りをおこなうなど計画的な内容にやや不足していたが海洋教育パイオニアスクールに採択されてからは、科目の内容に網羅的に海洋について学べるように内容的に変更をおこなった。

③ 次年度への課題

来年度は予算が縮小されるので、大きな活動はできないが少しでも八丈の子どもたちが海とかかわり海洋がもたらした文化を担えるような指導を創意工夫しながら継続していきたい。

6. 主な連携機関及び内容

八丈町

庁内に高校魅力化プロジェクト立ち上げ、学校を支援している。

ビジターセンター

八丈の自然について展示をしており、訪問すれば専門知識を提供してもらえる

八丈町観光協会

観光についての相談や資料の提供

島しょ農林水産総合センター八丈事業所

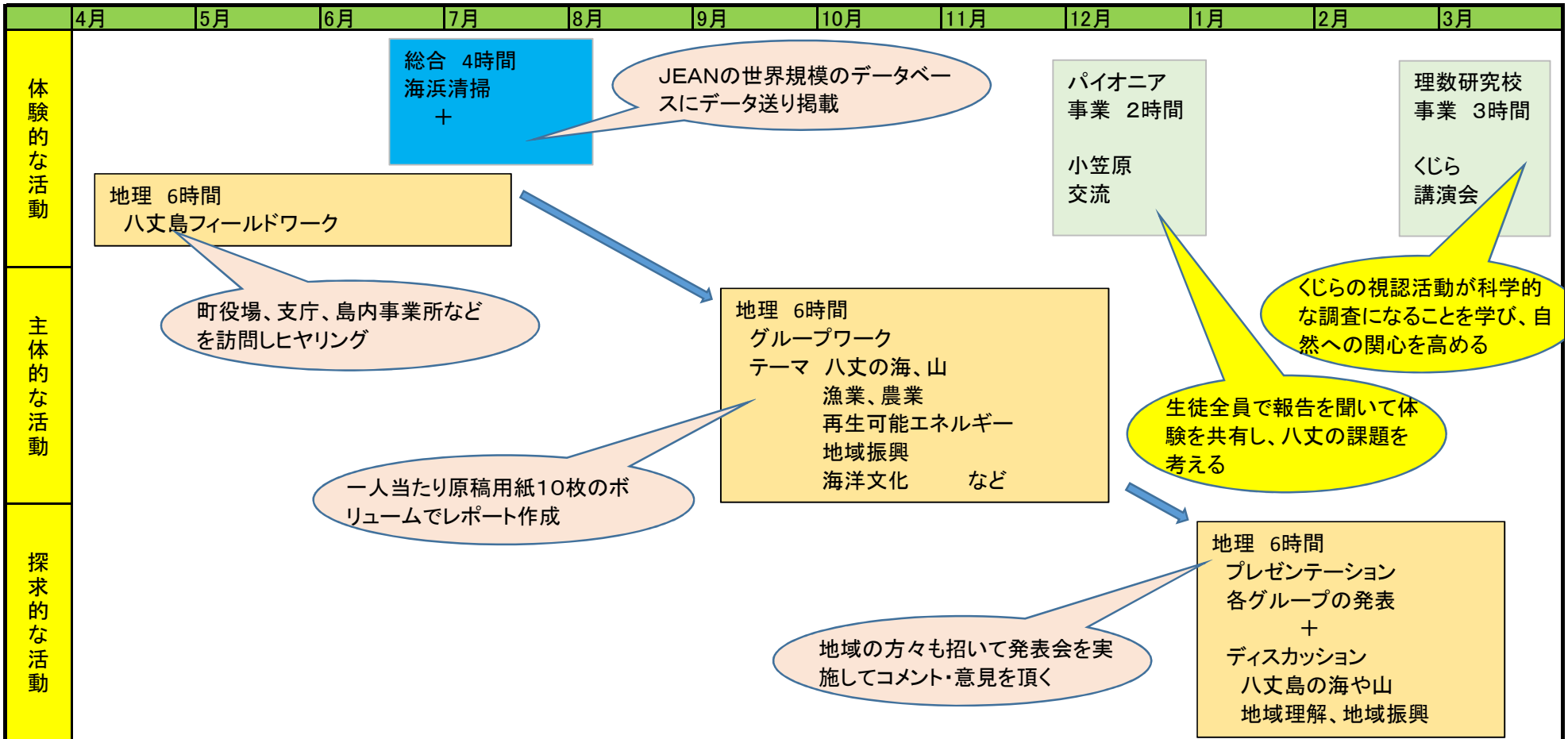
海洋及び漁業についての研究および普及の業務をおこなっている

1年「島しょにおける海洋教育の推進」

【実践のねらい】

八丈の子どもにとって海はあまりにも近い存在であり、日常化しているために幼少期から慣れ親しんできているが、高校ではむしろほかの活動が忙しく興味関心が薄れつつあるので、八丈の海とのかかわりや地域課題について総合系統的な学びを実施して、再認識をはかるとともに2年次のより主体的な実践へとつなげる

時数 総合 4時間 地理A 18時間 教科外 5時間
 関連 総合的な学習 地理A 特別活動
 目標



2年「島しょにおける海洋教育の推進」

【実践のねらい】

八丈高校の主役である2年生として、各地との交流事業に積極的に参加させて主体性を発揮するとともに、他者の体験を共有することをおこないディスカッションを通じて、自らの問題や課題としてとらえられる能力を育成する。

(参加は公募制とし、おもに2年生を対象とするが1年、3年の希望も可とした)

時数 教科外 5時間～3泊6日

関連 化学基礎

目標

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	交流事業説明 1時間 各プログラムの予定、募集時期、方法の	パイオニア事業 4泊5日 小笠原交流 事前事後6時間 代表生徒選考 ↓ 事前学習 ↓			タ丈プロジェクト 3泊4日 夕張高校と八丈高校の交流 事後4時間 夏季休業中 現地訪問し							
主体的な活動		現地学校や人々と交流し、小笠原の海洋を学習し八丈と比較し課題を考える →報告書作成			報告書作成							
探求的な活動		報告会 代表生徒が全校集会で現地での活動報告			島しょ高校生サミット 3泊6日 小笠原で実施 生徒会役員が集まりお互いの島と海を説明し交流 小笠原を見学し島しょ							

北海道内陸夕張に常春の八丈紹介

島しょの都立高校生が小笠原に揃うのははじめて！！

高大連携
 ハワイ大学カピオラニカレッジ交流校
 ハワイ島ナーバヒー高校
 在ハワイ総領事に面談するなど

ハワイリーダーシッププログラム SHIPと協働実施
 参加者公募
 SHIPが選考し決定
 事前研修
 八丈をしっかりと

参加者各自がテーマをもち学習し、現地でのリサーチ内容について計画する
 ↓
 仮説をきちんと立てて

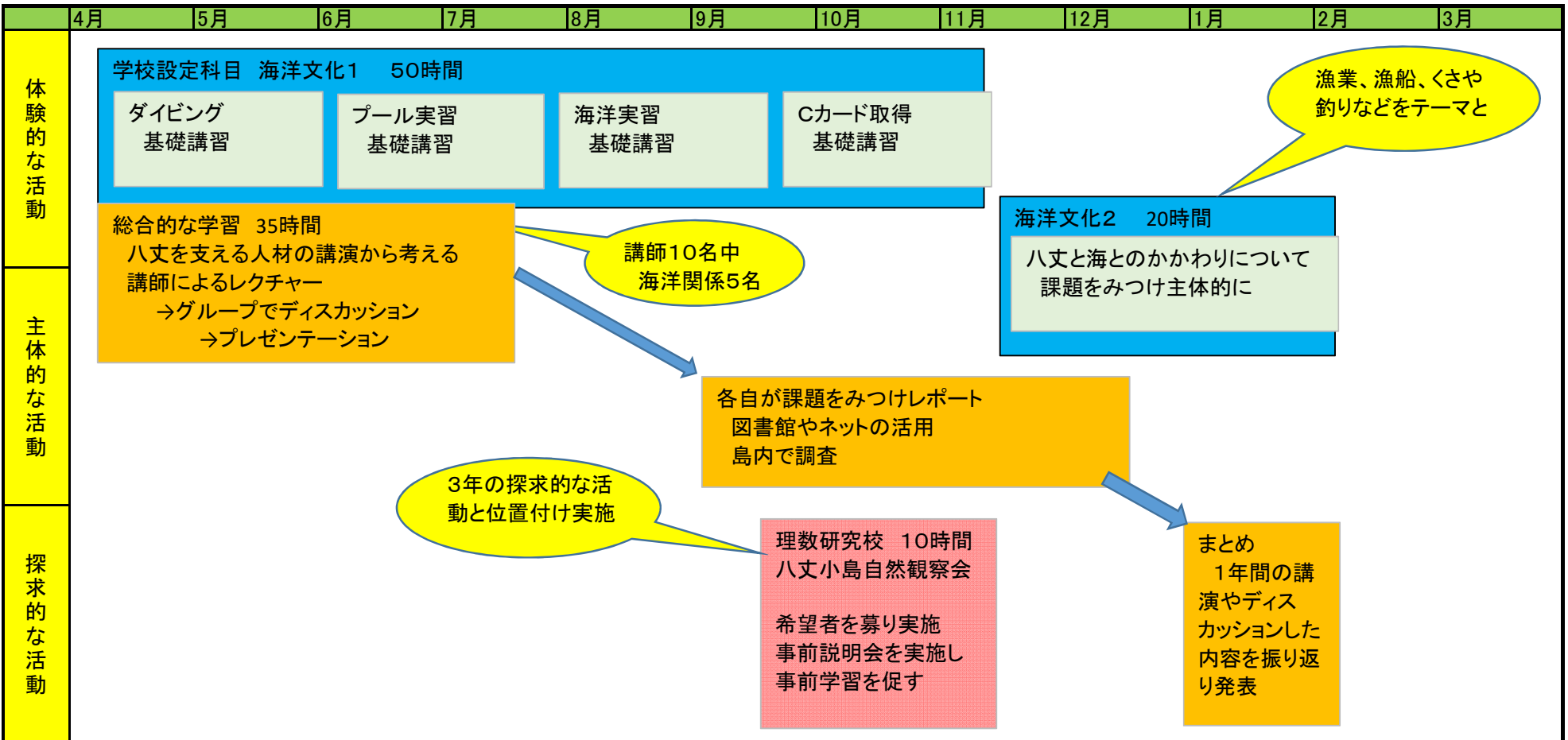
報告会
 帰国帰島後、小中高生と一般を対象に報告会実施
 事後活動
 自己のテーマにそつ

3年「島しょにおける海洋教育の推進」

【実践のねらい】

3年生のほとんどは卒業と同時に内地に上京し、内地で進学または上京する。そのため八丈のことを系統的に学ぶのはこれが最後の機会となる。そこで、八丈で活躍する人材をお招きしての講演を依頼しその活躍をお話いただくことで、島に対する愛着が増大することが期待される。

時数 総合的な学習 35時間 海洋文化 35時間 教科外 8時間
 関連 食物
 目標



漁業、漁船、くさや釣りをテーマと

講師10名中
海洋関係5名

3年の探求的な活動と位置付け実施

成果報告3 地域カンファレンス報告書

開催日時 平成 31 年 3 月 19 日 10 時 30 分～12 時 20 分

場所 都立八丈高等学校 視聴覚ホール

- プログラム
- 1 開会あいさつ 校長
 - 2 海洋教育プログラム活動報告
 - ・小笠原高校との交流
 - ・八丈-小笠原-ハワイの連携推進
 - ・島しょ高校生サミットについて
 - ・本校の取り組み

参加者数 約 120 名 在校生 100 名 職員・外部一般 20 名

発表内容概要

・小笠原高校との交流

八丈高校の南隣の高校は小笠原高校であるが、直線で 700 km 離れており、実際に訪問するには通常、八丈から東京まで船か飛行機で一旦 300 km 北上し、東京から船で 1000 km 南下するので、距離にして 1300 km、時間にして船であれば八丈を 9 時にでて東京で一泊して翌日 10 時の小笠原丸に乗船し翌々日 10 時に小笠原に到着するので、丸まる 2 日。48 時間かけて到着するので、八丈から日本一遠い高校である。

そのことは小笠原高校からも同様で、今回、海洋教育プログラムの支援を受けて両校が代表生徒による相互訪問ができたことは大変大きな意義がありました。

・八丈-小笠原-ハワイの連携推進

今年度は 1 学期にハワイ島ナーバヒー高校から短期留学生を迎え、1 学期は八丈高校で過ごし 1 学期の終わりには八丈町の小笠原親善訪問団に本校の生徒代表とともに小笠原を訪れ、八丈-小笠原-ハワイの高校生が小笠原で交流ができた。

さらに年度末の 3 月には、八丈高校と小笠原高校の生徒がSHIPのハワイリーダーズプログラムに参加し、ハワイ島を訪れ再度、八丈-小笠原-ハワイの高校生が交流し 3 島のきずなを深めることができた。

・島しょ高校生サミットについて

島しょ高校生サミットは昨年度、海洋教育プログラムの支援を受けて、大島に伊豆諸島、小笠原の7校の高校生が集まりプレサミットを開催したのに続いて今年度は、地域展開部門に採択されたので、予算規模も増え小笠原に7校の生徒が集まりサミットを開催することができ、台風などの影響があったものの大きな成果をあげることができた。

・本校の取り組み

海洋教育パイオニアスクールの指定も3年目となり集大成として、八丈-小笠原-ハワイの連携推進をおこなうことができたが、このほか北海道夕張という本校の自然環境とは真逆の地域との交流ができ、島しょ同士とはまた違った視点から自分たちの島や海を見直すことができた。また、本校生徒が夕張を訪問しただけでなく、夕張高校の生徒が本校を訪問する相互訪問をおこなったのでより関係性が深まった。

このほか本校では、教科では1年の地理A、学校設定科目の海洋文化、総合的な学習、理数研究校事業などで取り組みをおこないました。

成果

様々な取り組みや島しょやハワイ、北海道と交流をおこなうなかで、自分たちの島と海を改めて再認識して、地域に誇りをもつことが直接参加した生徒はもちろんのこと生徒全員に共有することができた。